

(様式1)

# 環境配慮検討書

令和元年 10月29日

三重県環境調整システム推進会議 会長 様

伊勢建設事務所長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	一般国道260号(東宮河内)道路改良事業	
連絡先	担当課所名	三重県伊勢建設事務所 事業推進室道路二課
	電話番号	0596-27-5217

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	一般国道260号(東宮河内)道路改良事業	
(2)目的	一般国道260号は三重県志摩市から北牟婁郡紀北町に至る延長約110kmの道路です。当路線は、一般国道260号のうち、線形不良および道路幅員が狭い東宮～河内間において安全且つ円滑な交通を確保することを目的としています。	
(3)事業主体	三重県 伊勢建設事務所	
(4)計画内容	①計画地の位置 ※位置図を添付すること	三重県度会郡南伊勢町東宮～河内地内
	②建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、配置等) ※配置図を添付すること	道路規格:3種3級 設計速度:40km/h 道路幅員:W=7.5m(0.75+3.00+3.00+0.75) 道路計画延長:L=1.8km
	③用水の使用計画	なし
	④エネルギーの使用計画	なし
	⑤雨水、汚水の排水計画	雨水：道路側溝や小段排水等から排水路により安全に河川に導く。 汚水：
	⑥道路・交通計画	現況交通量 4,090台/日(H27センサス) 計画交通量 4,090台/日
	⑦工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の予定時期
(5)関連事業計画	特になし	
(6)その他	特になし	

## 2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	①交通の現況	<p>一般国道260号は三重県志摩市から北牟婁郡紀北町に至る延長約110kmの道路です。当該計画区間の交通量は4,090台/日(H27センサス)です。</p> <p>道路線形は、急峻な山地沿いのルートであり、線形不良且つ道路幅員が狭い。また、本工区の周辺には迂回路となる道路が存在しない。</p>
	②土地利用の現況	<p>計画路線の起点部は、東宮地区の集落地であり、人家や店舗がある。</p> <p>現道沿いには、バス停、津波の避難場所がある。</p> <p>計画路線の主要区間は、現道沿いの尾根および谷部で構成され、急峻な箇所が多い。太陽光発電所、店舗(一軒)、クリーンセンター、採石所が沿線にある。</p> <p>終点部は河内地区の集落地であり、人家や工場がある。</p>
	③水域利用の現況	<p>農業用水として利用されていない。</p>
	④生活関連施設の現況	<p>周辺には、下記の生活環境施設があります。</p> <p>a.学校施設:町立なかよし保育園、町立南島中学校</p> <p>b.医療施設:なし</p> <p>c.文化施設:東宮資料保存館、河村瑞賢公園、河村瑞賢生誕地等</p> <p>d.福祉施設:なし</p> <p>e:クリーンセンターなんとう</p>
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	①自然環境保全地域等の指定状況	<p>a. 自然環境保全地域（地区）：指定なし</p> <p>b. 自然公園地域（区域）：指定なし</p> <p>c. 鳥獣保護区の指定状況：指定なし</p>
	②土地利用規制の現況	<p>a. 都市計画法:規制なし</p> <p>b. 農業地域振興法:規制なし</p> <p>c. 森林法等:規制あり(保安林)</p> <p>d. 砂防法等:規制あり(砂防指定河川:東宮川)</p> <p>e. 河川法:規制あり(東宮川)</p> <p>f. 土砂災害防止法:規制なし</p> <p>g. 文化財保護法:規制なし</p> <p>h. 三重県景観計画:規制あり</p>

3 計画地の自然的条件の現況

(1)地形 ・地質	文献調査	文献名	平成29年度地特道路(橋震)一般国道260号(東宮河内I期)道路改良(地質調査その1、2)報告書		
	現地調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無 (実施日時 H.29)		聴取調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等	<p>地形:南北方向に伸びる尾根が南流する河川によって仕切られている。尾根部の標高は100m前後である。河川の周辺には沖積平野が広がる。</p> <p>地質:四万十帯付加複合岩帯の北部地域に位置する。周辺は、四万十帯の砂岩頁岩互層を基岩として分布しており、東宮川周辺の平野部には沖積層である玉石混じり砂礫、砂混じりシルト等が堆積している。また、山地部では、表土の下に風化した砂岩頁岩互層が比較的浅部から分布し、谷部では崖錐堆積物が薄く分布する。</p>			
(2)水象	文献調査	文献名	-		
	現地調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無 (実施日時 )		聴取調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等 ① 川、湖沼	事業計画地およびその周辺における主要な河川として東宮川があります。東宮川は神前湾に至ります。			
	②海域				
(3)気象・ 大気質等	調査の方法	<p>気象:津地方気象台南伊勢観測所における年平均値(気象庁HPより)</p> <p>水質:-</p> <p>大気質:平成29年度大気環境測定結果(三重県HPより)</p>			
	調査結果	<p>a.気温:平均気温 15.8°C (1979~2018年平均)</p> <p>b.降水量:2,223mm/年 (1978~2018年平均)</p> <p>c.最多風向:西北西(1979~2018年)</p> <p>d.風速:1.4m/s(1979~2018年平均)</p> <p>e.大気質:最寄り観測所(鵜方)の年平均より(2017)</p> <p>S02:0.001ppm N02:0.004ppm SPM:0.018mg/m3</p> <p>f.水質:資料なし</p> <p>g.騒音:資料なし</p> <p>h.振動:資料なし</p>			

(4)生態系等	調査	文献名	自然環境保全基礎調査(環境省) 三重県レッドデータブック2015	
	現地調査の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	(実施日時 )	聴取調査の有無 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等 ① 植物	<p>植生の概要：主に、シイ、カシ二次林およびスギ、ヒノキ、サワラ 植林を主体とする常緑樹林が広く分布しています。</p> <p>貴重な植物個体：レッドデータブックによると、この地域周辺に分布するまたは記録がある絶滅危惧のある貴重な種として、アヅマツメクサ、キダチクジャクゴケを含む維管束植物25種、蘇苔類1種が記録されています。</p> <p>貴重な植物群落：特に貴重な植物群落は見受けられません。</p>		
② 動物	<p>動物相の概要：哺乳類はキツネ、タヌキ、イノシシ、ニホンジカなど広く分布しています。</p> <p>貴重な動物：レッドデータブックによると、この地域周辺に分布するまたは記録がある絶滅危惧のある貴重な種として、オシドリ、クマタカを含む鳥類2種、昆虫類9種、汽水・淡水魚類1種が記録されています。</p>			

(5)自然景 観・文化 財等	文献調査	文献名	三重県ホームページ:指定文化財一覧		
	現地調査の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	(実施日時 )	聴取調査の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等 ① 自然景観	<p>自然景観の概要：対象地域は、伊勢志摩国立公園の指定区域外です。また、周辺の大部分は、森林となっています。</p> <p>貴重な自然景観：特になし</p>			
	②文化財、史 跡、名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物：周辺には下記の文化財があります。</p> <p>県:有形文化財(彫刻) 木造大日如来坐像</p> <p>埋蔵文化財包蔵地：特になし</p>			
③野外レクリエー ション 他					
(6)その他、 自然災害 等					

4 事業計画の検討内容（複数案比較）

\*用地選定が異なる計画、同じ用地での異なる計画等との比較を行う。比較検討用の位置図を添付すること。

	事業計画案(現道ルート案)	比較検討(バイパス案)	-
(1)計画の概要	現道を活用した案	起終を短絡的に結びトンネルを主体とした案	
(2)環境評価（*左欄に◎○△を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入）			
①循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 ②人と自然が共にある環境の保全 ③やすらぎと潤いのある快適な環境の創造			
①-1 地球温暖化防止	△ 現道を最大限活用するため、曲線部が多数存在することから走行車への負担がかかる。	○ 延長が短くなり、道路線形も良く、勾配も緩やかになるため、走行車への負担が軽減される。	
①-2 廃棄物対策	○ 切盛の土量バランスは概ね取れているが、トンネル残土について場外への持ち出しが生じる。 また、トンネル発生土については、設計段階で含有物質の調査を行い適正に処理する。 発生するコンクリート塊、アスファルト塊、木くずは、再生資源化施設へ搬入する。	△ トンネル主体であるため、多くのトンネル残土が発生し、場外への持ち出しが生じる。 また、トンネル発生土については、設計段階で含有物質の調査を行い適正に処理する。 発生するコンクリート塊、アスファルト塊、木くずは、再生資源化施設へ搬入する。	
①-3 生活環境の保全	○ 現道拡幅が基本となるが沿道利用の制約は起終点付近と少ない。 現道拡幅であるため、走行車両による騒音、振動、大気汚染などの影響の増加は少ない。	○ トンネル主体のため、沿道利用の制約、支障物件がほとんどない。 距離が短くなるため、走行車両による騒音、振動、大気汚染などの軽減が期待できる。	
①-4 その他重点項目	△ 現道拡幅であるため、施工時に現道交通の規制を行う必要がある。 工事において、低騒音型、排出ガス対策型の重機を使用する。	○ バイパスであるため、工事による現道交通への影響は小さい。 工事において、低騒音型、排出ガス対策型の重機を使用する。	
②-1 野生生物等の生育空間の確保	○ 現道拡幅であるため、影響は少ない。	△ バイパス整備であるため、新たに影響を及ぼす範囲が大きい。	
②-2 希少な野生生物の保護	○ 現道拡幅であるため、影響は少ない。	△ バイパス整備であるため、新たに影響を及ぼす範囲が大きい。	
②-3 地形、地質等の改変の抑止	○ 現道拡幅であるため、影響は少ない。	△ バイパス整備であるため、新たに影響を及ぼす範囲が大きい。	

②-4 その他重点項目	○	土工量は明かり部についてはバランスが取れている。 トンネル残土について、現場外へ搬出する必要がある。	△	多くのトンネル残土について、現場外へ搬出する必要がある。		
③-1 緑化、周辺景観との調和	○	土工法面は、緑化工法を基本とするが、潮風の影響を考慮する。	○	土工法面は緑化工法を採用する。		
③-2 親水等、ふれあい空間づくり		特になし		特になし		
③-3 その他重点項目	○	指定文化財とは近接していない。	○	指定文化財とは近接していない。		
④上記以外の 特記事項	○	他の案と比べ、経済性に優れている。	×	整備効果は、全線開通後にしか発現しない。 経済性で現道ルート案より劣る。		

#### 5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長 所	バイパスルート案に比べ、経済性、整備効果の発現性、沿道施設へのアクセスに優れます。また、現道よりも線形が改善されることから、走行車両による騒音、振動、大気汚染などの軽減も期待できます。
短 所	バイパスに比べ、トンネル延長が短いため、走行車両による騒音、振動、大気汚染などで劣ります。
会議で調整を要する事柄	